マイアミ－ラテンアメリカへのビジネス拠点として

カルデナス イバン

アメリカ本土最南東に位置するフロリダ州のさらに南東にあるマイアミ。その地理的特徴からラテンアメリカとの関係は古く、同地域は現在では米国とラテンアメリカを結ぶ重要な都市として発展し、「ラテンアメリカの首都」としての地位を築いている。

ラテンアメリカの主要経済誌「America Economia」が毎年発表している「ラテンアメリカにおけるもっともビジネスのしやすい都市ランキング」では、米国から唯一カウントされているマイアミが毎年1位を獲得している（表1）[1]。同ランキングは、マイアミが米国の都市でありながら、ラテンアメリカでビジネスを行う上で重要な役割を担っていることを示していると言える。

カリフォルニア州のロサンゼルスやテキサス州のヒューストン等と異なり、フロリダ州のマイアミはヒスパニック人口の多さだけではなく、社会・経済・文化等の多くの側面でもラテンアメリカ全体の影響力が色濃く認められ、米国からラテンアメリカ市場への流れだけではなく、ラテンアメリカから米国市場への流れにおいても同市は重要な拠点としての特徴を有している。

本稿では特にマイアミとラテンアメリカの関係性が強いヒト、モノ、カネ及び情報の4点について概観し、米国の他の地域とは異なるマイアミとラテンアメリカの関係の深さと特徴について説明する。最後にはマイアミを拠点とする国際的な企業の活動について触れたいと思う。

ヒト

マイアミを中心とするフロリダ州南部には多くのヒスパニック系人口が住んでいることはよく知られている。特にラテンアメリカ各国の政治経済状況が混乱すると、多くの人と資本がマイアミに流れ込む構図が1959年のキューバ革命以降顕著となっている。現在では、マイアミを含むマイアミ・デード郡の人口の65%はラテンアメリカ系であり、その大半はキューバ系ではあるものの、コロンビア系、ニカラグア系等のラテンアメリカ各国からの移民が多いことが一つの特徴であり、特に中間層及び富裕層の移住が目立つ（表2）。その一例として、近年ではベネズエラの政治経済の混乱が原因で、多くの裕福なベネズエラ人がマイアミ・デード郡に移住し、後述するように、マイアミでの不動産取得の他に、本国からマイアミの金融機関への資金の流出がみられる。

表2　マイアミ・デード郡におけるヒスパニック人口(2010)

	人数	割合
人口	2,496,435	100.0
ヒスパニック人口	1,623,859	65.0
出身別		
キューバ	856,007	34.3
コロンビア	114,701	4.6
ニカラグア	105,495	4.2
プエルトリコ	92,358	3.7
ドミニカ共和国	57,999	2.3
ホンジュラス	54,192	2.2
メキシコ	51,736	2.1
ベネズエラ	46,851	1.9
ペルー	40,701	1.6
アルゼンチン	28,612	1.1
その他	175,207	7.0

出典）U.S. Census Bureau, 2010

表1　ラテンアメリカで最もビジネスがしやすい都市ランキング（2015年）

	国	都市	人口（百万人）	GDP（百万米ドル）	一人当たりGDP（米ドル）	失業率	電力コスト（米ドル/kWh）	国際直行便数	ブランド力	総合点
1	米国	マイアミ※	5.93	290,018	48,908	5.6	0.118	147	100.00	100.00
2	チリ	サンティアゴ	6.85	125,945	18,538	5.9	0.179	35	97.19	85.59
3	ブラジル	サンパウロ	20.94	364,835	17,427	11.3	0.123	53	98.23	85.39
4	メキシコ	メキシコ・シティ	21.18	319,031	15,064	5.9	0.225	52	90.93	80.76
5	コロンビア	ボゴタ	9.16	108,782	11,882	7.6	0.143	40	94.26	76.23
6	パナマ	パナマ・シティ	1.95	29,973	15,386	3.5	0.170	75	83.91	75.18
7	アルゼンチン	ブエノス・アイレス	13.59	285,227	20,981	7.9	0.009	41	94.72	75.03
8	ウルグアイ	モンテビデオ	1.66	28,249	17,004	6.5	0.191	11	73.40	70.58
9	ブラジル	リオデジャネイロ	12.23	141,360	11,559	4.0	0.155	27	85.50	70.13
10	ペルー	リマ	9.75	108,046	11,080	6.4	0.115	37	80.10	69.81

※マイアミ / フォート・ローダーデル / ポンパノビーチ都市圏の人口　出典）America Economia

表３　ラテンアメリカの港湾ランキング（2015 年）

	国	港	取扱量（2014､千TEU）	面積（km²）	バース数	コンテナクレーン数	フリーゾーン	港－空港間の距離（km）	鉄道網との接続	港湾の総合点
1	パナマ	バルボア	3,388.4	2.04	8	25	○	2.8	×	80.9
2	ブラジル	サントス	3,684.8	7.80	65	53	○	111.0	○	80.5
3	パナマ	コロン	3,317.1	3.77	17	43	○	74.7	×	78.8
4	米国	マイアミ	925.5	2.60	17	13	○	17.5	○	75.3
5	コロンビア	カルタヘナ	2,385.5	1.30	9	17	○	4.0	×	73.9
6	メキシコ	マンサニージョ	2,355.1	4.37	21	13	×	764.0	○	72.9
7	ペルー	カリャオ	1,992.5	1.49	19	8	×	8.3	×	71.9
8	チリ	サンアントニオ	1,177.0	8.35	9	11	×	112.0	○	70.0
9	チリ	バルパライソ	1,010.3	0.79	5	9	×	109.0	×	67.1
10	エクアドル	グアヤキル	1,056.5	0.95	10	6	○	16.0	○	63.7

出典）America Economia

その他に、人的ネットワーク等を通じて、ラテンアメリカ（特にカリブ地域）からの高度な技術や専門知識を有する人材のマイアミへの流出が指摘されている。本国とマイアミの経済格差及び社会安定性などの違いから、マイアミには多くのラテンアメリカ出身の優秀な人材が集まっており、ラテンアメリカと米国をつなぐ重要な役割を果たしている。

また、移民だけではなく、マイアミを含むフロリダ州はラテンアメリカの中間層や富裕層にとって魅力的な観光スポットにもなっている。2014 年にはフロリダを訪れた外国人（カナダ人を除く）は 1,119 万を数え、ブラジルからは 160 万人、アルゼンチンは 70 万人、コロンビアは 60 万人と、ラテンアメリカからの観光客が目立つ。

モノ

ヒトの移動とともに、モノの移動もマイアミを拠点として米・ラテンアメリカ間で活発に行われている。マイアミには全米屈指の規模を誇る空港及び港湾があり、ラテンアメリカとの貿易の重要な割合を占めている。マイアミ国際空港はラテンアメリカ 34 ヵ国及び地域の 78 の都市との 140 以上の直行便を有しており、キューバへのチャーター便も毎日就航している。外国旅客ランキングでは全米 2 位（2014 年に 2,010 万人）、国際貨物量では全米 1 位（同 192 万米トン）であるマイアミ空港はラテンアメリカと米国を結ぶハブであり、双方の全空輸貿易量の 8 割以上を占めている。輸入品は金から生鮮青果までと多岐にわたり、ラテンアメリカ各国から輸入された金はマイアミを通じてスイスや香港などへと再輸出されており、コロンビア産花卉類の 88% はマイアミ空港を経由し、全米各地へと運ばれる等、重要な物流拠点にもなっている。他方で、マイアミ空港からは航空部品、携帯電話、パソコン機器及び医療機器などの輸出が多くみられ、空のネットワークを使って迅速な輸送が行われている。

また、アジア・ラテンアメリカ間の物流に着目し、韓国のアシアナ航空、大韓航空、台湾のチャイナ・エアライン及び香港のキャセイ・パシフィック航空の南米向け貨物便はマイアミ空港を経由している。

一方、海の輸送においてもマイアミ港は、米国とラテンアメリカとの貿易の中で重要な役割を占めている。フロリダ経済開発局によれば、米国のラテンアメリカからの輸入の 22%、米国からラテンアメリカへの輸出の 32%はフロリダを通じて行われており、双方の貿易額は 2014 年には 922 億米ドルに達している。特にカリブ諸国との貿易関係が密であり、米国・カリブ諸国間貿易の 36% はフロリダ（特にマイアミを含む南フロリダ）を通じて行われており、今後キューバとの関係改善が進めば、その恩恵を最も受けるのは、キューバ系が多く住むマイアミであると言われている。

同港はまた、パナマ運河拡張に備えてポスト・パナマックス船を受け入れるための浚渫（しゅんせつ）工事を今年 9 月に終了し、バージニア州ノーフォーク港以南では東海岸唯一の受け入れ可能港湾となっている。また、港湾と全米の鉄道網及び高速道路網を結ぶトンネル工事も終了しており、よりスムーズな物の移動が可能となる見込みである。

前述の America Economia 誌が発表している「ラテンアメリカの港湾ランキング」ではマイアミ港はラテンアメリカの主要港に比べ取扱量こそ少ないものの、その接続性やインフラ整備が高く評価され 4 位となっている（表 3）[2]。

カネ

ヒトやモノの流れだけではなく、マイアミにはラテンアメリカからの資本が多く流入している現実もある。

フロリダにある18カ国の71に及ぶ金融機関を束ねるフロリダ国際銀行協会（FIBA）が2013年に発表した報告書によると、フロリダにおける金融機関の海外銀行業務は同州に20億米ドルの直接的な経済効果をもたらしていると試算している。特にマイアミの不動産業についてもラテンアメリカからの多くの資金が流入しており、ラテンアメリカ各国の政治経済不安が高まると、マイアミは資産の安全な避難場所として見られ、これらの国からの資金が流入する傾向があると、同報告書が指摘している[3]。事実、Florida Taxwatchの報告書によれば、2013年にマイアミ・デード郡で売買された不動産の26%は外国人が購入しており、その7割はラテンアメリカ出身、特に経済が低迷しているベネズエラ、アルゼンチン及びブラジルの出身者が多く[4]、約7割は平均59万ドルの不動産を現金で取得している[5]。

さらに、マイアミには現在23の外国の金融機関が拠点を構えており、その総資産は152億米ドルに達する。South Florida Business Journal誌の調べでは、南フロリダに本部を置くトップ25の銀行のうち、12行はスペイン・ラテンアメリカまたはヒスパニック系企業の傘下機関となっている（表4参照）。これらの金融機関を通じた双方間のカネの流れは活発で、多くの中南米企業は米国進出の際にこれらの銀行を通じてマイアミに進出するという事例が見られる。

表4　スペイン・ラテンアメリカ系企業を親会社とする主要なマイアミ・デード郡の金融機関

銀行名	親会社	出身国
Mercantil Commercebank	Mercantil Servicios Financieros	ベネズエラ
City National Bank of Florida	BCI	チリ
Sabadell United Bank	Banco de Sabadell	スペイン
Ocean Bank	Central Madeirense 等	ベネズエラ
TotalBank	Banco Popular Español	スペイン
BAC Florida Bank	Grupo Pellas	ニカラグア
US Century Bank		キューバ系アメリカ人
Banesco USA	Banesco Banco Universal	ベネズエラ
Sunstate Bank	Banco Sofisa	ブラジル
Plus International Bank	Sacal 家	メキシコ

出典）South Florida Business Journal

情報

米国とラテンアメリカを結ぶマイアミのもう一つの大きな特徴として、同市には多くの情報が集まり、かつ発信されている点が挙げられる。その情報は学術的なものから政治、経済及び文化など広範にわたる。

マイアミには多くの領事館及び商工会議所がある。フロリダ経済開発局の調べでは、現在マイアミには44カ国の領事館及び33もの二国間商工会議所が存在し[6]、上記のヒト、モノ及びカネの移動を支えている。さらに、マイアミ大学及びフロリダ国際大学ではラテンアメリカ関連の研究が盛んであり、著名なシンクタンクである米州評議会もまたマイアミに支部を擁している。安全保障面では、米軍のラテンアメリカ地域を統括する南方軍（SOUTHCOM）の本部が置かれており、ラテンアメリカにおける対麻薬組織及び対テロ組織に対する指揮がマイアミから執られている。

また、米国内のヒスパニック人口の台頭にともない、同コミュニティー向けのメディアも増加している。視聴世帯数が6,000万以上を誇る全米最大のスペイン語テレビ局のUNIVISION及びその2番手であるTELEMUNDOの本部はマイアミにあり、CNNもまたマイアミにスペイン語版の番組収録スタジオを擁している。さらに、MTV LatinoamericaやSony Entertainment Television Latin America等のラテンアメリカ向けの米国ケーブルテレビ局の多くはマイアミに拠点を置き、音楽・スポーツ・文化などの情報を発信している。これらのテレビ局を通じてマイアミで作られた音楽や番組等のトレンドをラテンアメリカに波及していく構図に着目し、マイアミを「ラテンアメリカのハリウッド」と呼ぶことがある。

ラテンアメリカへのビジネス拠点として

上述したように、マイアミとラテンアメリカの関係性はヒト、モノ、カネ及び情報など多岐にわたり、結びつきが非常に深い。バイリンガルかつ多様な文化的背景を持つ優秀な人材が豊富にあり、距離的な近さに加えインフラの整備が進んでいるため貿易が活発で、さらに本国の政治経済的な混乱を忌避し、法的安定性が保証されているマイアミの金融機関を通じてラテンアメリカからの資金が流入している。マイアミにはこれらの要素が合わさっているために、情報が集まりかつ発信される。

ラテンアメリカ市場を狙う多くの多国籍企業はマイアミに拠点を置くのは、これらの要素の集積があるためである。特に、ラテンアメリカにおける中間層の拡大は大きなビジネスチャンスとして見ている企業が多い。マイアミ・デード郡の経済開発を担うBeacon Councilによれば、マイアミには1,100社を超える多国籍企業が進出しており、ラテンアメリカ地域の統括機能やマーケティング部門、法務、会計などの専門的部門やトレーニング事業などが置かれている。既に述べた企業以外にも、FedexやUPS等の物流企業、

Audi や Porsche などの自動車メーカー、Oracle や Microsoft 等のハイテク企業等がラテンアメリカの統括事業をマイアミに構えている。

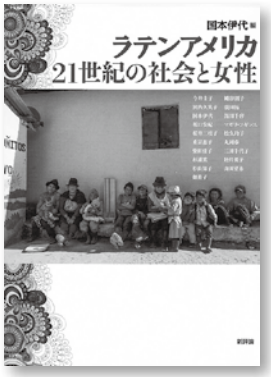
他方で、近年では米国市場を狙うスペインやラテンアメリカの企業もまたマイアミを米国市場への足掛かりとして進出している事例が多い。前述の Beacon Council によればマイアミに拠点を置くラテンアメリカ企業は現在では 100 社を超えており、ブラジルの Embrael や Odebrecht、チリの BCI 銀行や LAN 航空、メキシコの Televisa、コロンビアの Avianca 航空等がその一例である。

既に述べたとおり、歴史的に見てラテンアメリカ諸国の政治経済情勢の悪化がマイアミへのヒト・モノ・カネの流入を促す一方で、その改善は逆に米国企業の進出を加速させる。そのため、マイアミとラテンアメリカの関係は今後より一層深まることはあっても、希薄になる可能性は低いと言える。そして、歴史的につながりの深いキューバと米国の関係が改善に向かった場合、最も大きなアドバンテージがあるのは、ハバナに一番近い都市であるマイアミであろう。

（Ivan Cardenas　プロマー・コンサルティング　コンサルタント、
元在マイアミ日本総領事館専門調査員）

1 http://rankings.americaeconomia.com/mejores-ciudades-2015/
2 http://rankings.americaeconomia.com/puertos-2015/
3 “The Economic Impact of International Banking in Florida and Industry Survey, 2013” FIBA, Dec. 2013.
4 “Buying In, An Analysis of International Homebuyers in Florida” Florida TaxWatch, June 2014.
5 “Profile of International Home Buyers in Florida, 2015 Report” National Association of REALTORS, September, 2015.
6 “Florida: Gateway To Latin America & The Caribbean” Enterprise Florida, May, 2015.

ラテンアメリカ参考図書案内



『ラテンアメリカ 21 世紀の社会と女性』

国本 伊代編　新評
2015 年 11 月　416 頁　3,800 円+税　ISBN978-4-7948-1024-3

15 年毎にラテンアメリカの社会の変容と女性のおかれた環境変化を、同じ編者が検証してきたシリーズの 3 冊目。

序章で地域全体の女性が活躍する 21 世紀のラテンアメリカ社会、女性をとりまく社会・経済状況、女性の政界進出を、日本との比較データを示しつつ概観し、次いで 20 世紀の遺産を相続しているアルゼンチン、激変する体制下のボリビア、ジェンダー格差克服に挑戦するブラジル、女性大統領を誕生させたチリ、女性の地位を向上させているコスタリカ、階層を超えて平和を求めるコロンビア、平等主義と自由化の間で生きるキューバ、女性を軸に国づくりするドミニカ共和国、多民族国家として歩むエクアドル、女性の権利主張が生命への危険があるエルサルバドル、民族階層を超えようとしているグアテマラ、ジェンダー格差克服を目指すホンジュラス、連携により女性が活躍するジャマイカ、男女平等社会を目指すメキシコ、左派政権が復活し保守化した中で生き残りを図らねばならないニカラグア、運河に左右される経済の中でのパナマ、政治の民主化の中で社会参画が始まったパラグアイ、教育水準の向上で女性の社会進出が変貌したペルー、女性の政治参加が進展しているウルグアイ、ボリバル革命下での女性政策をみたベネズエラと、20 カ国の現在の社会での女性を取り巻く環境をそれぞれの研究者が考察している。

〔桜井 敏浩〕